

鬼瓦のルーツを尋ねて 韓国へ ①9

釜山から高速バスで光州へ

前橋市 富山 弘毅

韓国南部の旅の5日目。雨にぬれながら梵魚寺を歩き、梵魚寺駅の次の老圃駅（地下鉄1号線終点）に隣接する釜山総合バスターミナルから光州（クァンジュ）行きの高速バスに乗り込みました。

事前のインターネット検索ではW20,300でしたが、発券窓口にお金を出したら突っ返され、料金表の掲示を見たらW23,700。見間違えでしょうか、それとも突然、大幅値上げをしたのでしょうか。

12:00 発。大型バスに乗客はたった6人。バスは広大な釜山市の東端から出発し、釜山市を通り抜けて西へ向かいます。雨の高速道はかなり渋滞しています。予定通り3時間半で到着するのだろうか。

肌寒くて眠れないまま2時間弱、どこか地名のわからないサービスエリアで10分のトイレ休憩。日本のSAとよく似ていて、土産物店、軽食堂、立ち食いコーナーなどがありましたが、何も買わずにバスに戻りました。光州2泊に最小限必要な衣類などとカメラをリュックにつめ、あとは釜山のホテルに預けてきたのですが、わずかに用意したベストを着込みました。少し頭痛もしてきたからです。

光州の市内に入ると、高層ビルが林立して大都市であることをうかがわせ、偶数年に開催される国際美術祭典・光州ビエンナーレの会場の看板が目に入りました。

光州事件＝5.18 民主化運動（1980年）の墓地や5.18 記念公園など、訪れたい所はあるのです。当時、人口27万の光州市に2万人の軍隊が乗り込み、無差別銃撃で民衆を鎮圧した大虐殺事件です。犠牲者、負傷者として認定された4,362人に補償金が支給されたのは、まさに歴史的。済州島の「済州4・3事件」でも日本の治安維持法による弾圧事件でも、補償金は出

ていませんから、勉強したいのですが、残念ながら今回はゆとりがありません。

15:30 定刻ピッタリに光州総合バスターミナルに到着。そこは釜山のターミナルよりも大規模なショッピング街で、大型書店などもあり、一回りしてみたら日本食堂も2～3店ありました。

幸運！ 日本語タクシーOK

観光案内所に、日本語のできる親切な女性職員がいました。相談すると、「いつか、日本語のガイドを必要とする人が来たら連絡してほしいと言っていたタクシーがある」と思い出してくれて、幸運にも電話がつながり、翌朝、タクシーがホテルに来てくれることになりました。—安心です。

日本語可能との触れ込みなので選んだホテルは、釜山の2倍の料金でしたが、部屋の広さや風呂、空調などはよかったものの、肝心の日本語はまるで通じません。

雨が小降りになり、傘なしでも平気だという感じになったので、夕暮れの街に出ました。ホテル、衣料品店などが並ぶ中で、華やかなネオンのカラオケ店と回転寿司店が目を引きました。

どこで夕食にしようかなと物色しているうちに、いつもの狭心症発作が襲ってきました。胸の激痛です。ヤバイ！ 冷水を飲むと治まるのですが、油断して持っていなかったのです。激しい痛みをがまんしつつ、いそいでホテルに戻り、冷蔵庫のミネラルウォーターでコトなきを得ました。

もう外出はやめよう。そうだ、2階に日式（和食）レストランがあると宣伝されていたな。行って見ると、こぎれいな日本料亭で、和障子の個室が10ぐらい並んでいるようです。高そうだな、まあ、いいか。

「あの、1人ですが」というと、和服姿の女将らしき人が怪訝そうな顔をします。「お食事が出来ますか」ときくと、両手で×印をされ、断られてしまいました。パツとしないジャンパー姿だったせいでしょうか。予約が必要だったのでしょうか。

せっかく大枚をつかう覚悟をしたのに、エイ、コンチキショウメです。外はかなり激しい雨。ホテルのレストランに座ってメニューを見たら、カレーライスがあったので注文しました。おいしくもまずくもありませんでした。疲れていました。

交渉して1時間2.5万ウォン

翌朝、水を司る龍が降らしたのではないかと思うほどの豪雨も上がって、9:00ちょうど、金銀宗（キムウンジョン）さんのタクシーが来ました。45歳。うなぎ屋だった父の家業を継ぐため、修行してうなぎ輸入の事業を起こそうと、東京、成田、名古屋で3年間働き、大学に入ろうとしたが果たせず、そのうちに家業はつぶれてしまったといいます。その間に身につけた日本語は、なかなか流暢でした。

「憲法9条しおり」をプレゼントしての挨拶のあと、値段交渉。「1日20万ウォン」という金さんに、「釜山では1時間2万ウォン、慶州では1日11万ウォンだった」と話したら、おどろいて「光州では、それではとてもやっていけません」。結局「1時間2万5千ウォン」で約束しました。

光州市内の名刹と、光州を基地に遠出して訪れたい寺を地図やインターネットで懸命に探し、10寺、リストアップしてありました。「これを2日間でするだけ回りたいのですが」と相談し、初日は市内を、2日目は遠征をすることにしました。

ハイカー集結の証心寺

真っ先に向かったのは、市内の大寺、証心寺（ジュンシムサ）で、ものすごい人出

でした。名山・無等山（ムドゥンサン）を中心とする無等山道立公園のハイキングコースのスタート地点なのです。杖やストックをもち弁当をリュックに詰めた老若男女が、土日にはワンサと集まり、山に向かいます。

その証心寺入口では、赤ん坊の頭ほどもある梨と、その梨のジュースを無料で配っていました。2度出入りした私は2回、もらいました。大梨は2つとも金運転手にあげましたが、梨ジュースはとてもおいしくいただきました。山歩きする人々に「のどが渴いたら途中でどうぞ」という、粋なサービスでした。行政がやっているのかどうかは、わかりませんでした。



光州 証心寺 大雄殿
北西 鬼

「車は進入禁止」と遮断機があり、金さんが「日本から来た写真家ですから」と特別の許可を取り、通行料を払って乗り入れました。ハイカーでいっぱい参道をゆるゆる2~3km進んで中心部にたどり着くと、大雄殿と梵鐘閣に鬼がいました。



光州 証心寺 大雄殿 南東 龍と鬼



光州 証心寺 大雄殿正面 彫刻 龍と鳳凰が交互

地獄殿の内部は、穏やかな顔の仏像を中心に明るくて平和そのものでしたが、外壁に「地獄絵」が描かれていました。閻魔大王が閻魔帳を広げてなにやら書き込んでいる。鬼どもが火をくべる大鍋で人間どもがゆでられている。まさに地獄ですが、注意してみると鬼たちに角がありません。



光州 証心寺 地獄殿 内部

私が鬼と呼ぶものには、基本形として角がほしいし、龍には角があるのですが、この地獄絵では鬼に角がない。もしかしたら韓国の人々の持つ「鬼」のイメージは、角が生える前の日本の鬼＝平安期までの鬼と似ているのかな、などと想像しました。

ハイカーかき分け薬師寺へ

証心寺からすぐ奥の薬師寺（ヤクササ）に向かいました。何千人、いや万にとどくのではないかと思われるほどの行列が、一柱門から寺を目指し、寺を抜けて、山へと続きます。

狭い山道のような参道で、人がいっぱい歩いています。タクシーだからといって、横着は出来ません。金さんは時々「ブッ」と控え目な警笛を鳴らし、後部座席の私は「すみません」と頭を下げながら、群集をかき分けるようにして2kmほど登り、大雄殿にたどり着きました。

腰を下ろして弁当を広げているグループ、参詣などしないでどんどん坂道に登る女性群、ビニール袋を持ってゴミを拾いながら登る若者など、韓国の人々のエネルギーが山に満ちていました。

薬師寺では、雲林堂に鳳凰 1 羽の隅瓦がありました。証心寺五百殿のそれと同じもので、美しいデザインです。

光州 証心寺 地獄殿 外壁 地獄絵



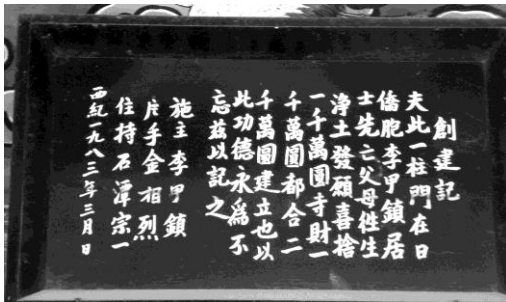


光州 薬師寺 雲林堂 鳳凰

堂々たる一柱門には額がかり、「この一柱門は在日の李甲鎮が亡き父母の往生浄土を発願して1,000万円喜捨し、寺が1,000万円、合計2,000万円で建立した。1983年3月」と書いてありました。故郷の寺への信仰と父母への思いを形にする在日の方がいることを知りました。



光州 薬師寺 一柱門



薬師寺 一柱門 説明額

文彬精舎で独自の鬼瓦発見

証心寺の入口にある末寺・文彬精舎（ブンミンジョンサ）では、一柱門（等持門）と極楽殿に、他でよく見る鬼面と似てはいるが下の部分が異なる独自のデザインの鬼面瓦がありました。私にとっては、貴重な発見です。



光州 文彬精舎 等持門 II
一柱門 大棟東 鬼

地図で見つけて「行きたい」と希望した光勒寺（カンヌクサ）、興国寺（フングクサ）、法弥寺（ポビャンサ）はともに証心寺の小さな末寺でした。珍しかったのは、興国寺の大雄殿の隅瓦にハングル文字で「グリーン」と刻まれていたことでした。



光州 興国寺 大雄殿 東
「グリーン」

興国寺の鐘楼門の大きな釣鐘は、頭には2匹の龍がおり、胴には天女の美しい姿が刻まれ「平和統一大梵鐘」「無等山興国寺」と描かれていました。



光州 興国寺 梵鐘閣 鐘 「平和統一」

光勒寺の一柱門の隅瓦は緑釉で、ムクゲの花のデザインに無等山の「ムドゥン」がハングル文字で刻まれていました。法弥寺の一柱門と極楽宝殿の隅瓦も同じでした。
(つづく)